2026年8月12日

各　位

会　社　名　　株式会社ブロードバンドセキュリティ
代 表 者 名　　代表取締役社長　　滝澤　貴志
（コード番号：4398　東証スタンダード）
問 合 せ 先　　管理本部 経営企画部長　高田　宜史
（TEL 03-5338-7430）

2027年6月期の業績予想について

2027年6月期(2026年7月1日から2027年6月30日)における当社の業績予想は、次のとおりであります。

（単位：百万円、%）

項目＼決算期	2027年6月期（予想）			2026年6月期（実績）	
		対売上高比率	対前期増減率		対売上高比率
売上高	7,600	100.0	12.1	6,779	100.0
営業利益	750	9.9	46.6	511	7.5
経常利益	730	9.6	34.6	542	8.0
当期純利益	470	6.2	26.7	371	5.5
1株当たり当期純利益	106円96銭			84円44銭	

【2027年6月期業績予想の前提条件】

(1)情報セキュリティ市場の拡大

企業のデジタル化や、AIの急速な普及が進む中、情報セキュリティ市場は今後も着実な成長が見込まれております。政府も、国家安全保障戦略に掲げる「能動的サイバー防御」の実現に向けて関連する法律を成立させ、重要インフラやサプライチェーンを含むサイバーセキュリティ対策の強化を進めております。また、AI技術の急速な進展により、サイバー攻撃の高度化・高速化が進んでおります。AIの進化は、企業活動の高度化や生産性向上に寄与する一方、サイバー攻撃の手法や速度にも変化をもたらしており、企業にはAI時代を前提としたセキュリティ態勢の整備が求められております。特に、フロンティアAIによる脅威について、金融庁及び日本銀行が脅威の変化を踏まえた対応を金融機関等に要請するなど、具体的な対応が必要な課題として認識され始めております。

さらに、近年では従来型の受動的な防御策では対応が難しい高度なサイバー攻撃が増加しているなかで、脅威の兆候を早期に検知し、攻撃者の行動を予測・分析して先回りの対策を講じることが求められる「能動的サイバー防御（Active Cyber Defense）」の重要性が認識されつつあり、「監視・検知・対応・防御を行う高度で専門的なセキュリティ運用」へのニーズは飛躍的に高まっております。

一方で、日本のセキュリティ人材が不足しているなかで、大手・準大手企業や中堅企業においては、高度なセキュリティ人材を採用し、育成することは難易度が高く、セキュリティ対策を自社内だけで完結することが難しい状況が続いております。

（２）事業基盤の強化と収益性向上に向けた取り組み

当社は、2000 年の創業以来、国内資本のセキュリティサービスプロバイダーとして、セキュリティ監査・コンサルティング、脆弱性診断、情報漏えい IT 対策を提供してまいりました。現在は、これらのサービスを統合した総合ソリューション提案型の営業体制を整備し、コンサルティングフェーズから運用・監視フェーズまで一貫してお客様を支援するモデルへと移行することで、従来の単品提供から包括的な提案へと転換が進んでおります。

その結果、前期末の受注残高は過去最高となり、セキュリティ監査・コンサルティングが伸長しました。また、「能動的サイバー防御（Active Cyber Defense）」を実現するアウトソーシング型サービス（G-MDR®）をリリースするなど、ストックビジネスが安定的に拡大しています。

また、コンサルタントやエンジニアに対する教育・研修、資格取得支援制度の拡充を通じ、専門性の高い人材の育成を推進することで生産能力を高めるとともに、顧客企業におけるサプライチェーンリスクを可視化する「情報セキュリティガバナンス支援サービス」を提供するなど、監査・コンサルティングサービスの生産効率性と利益率を高める取り組みを行ってまいります。

以上のことから、当社の 2027 年 6 月期の業績は、売上高 7,600 百万円（前期比 12.1%増）、営業利益 750 百万円（前期比 46.6%増）、経常利益 730 百万円（前期比 34.6%増）、当期純利益 470 百万円 （前期比 26.7%増）を見込んでおります。

【業績予想に関するご留意事項】

上記の業績予想は、本資料の発表日現在において入手可能な情報に基づいて作成したものであり、実際の業績は今後の様々な要因によって、予想数値と異なる可能性があります。

以上